脱IT初心者「社長の疑問・用語解説」（第33回）

シンクライアントで新規のクライアント増

2020.10.07



なんでカタカナばかりなんだとグチをこぼしたくなるIT用語。そんなIT初心者の社長にも、分かりやすく理解できるようにITキーワードを解説する本連載。今回も、カタカナIT用語の「シンクライアント」だ。

「社長、わが社もテレワークを利用する社員が増えてきたので、そろそろシンクライアントを導入しませんか」（総務兼IT担当者）

「何、新規の蔵？隠したいものでもあるのか」（社長）

「違いますよ。蔵じゃなくて、シンクライアント。パソコンの中にソフトやデータを入れないので、テレワークでも安全に仕事ができるんです」

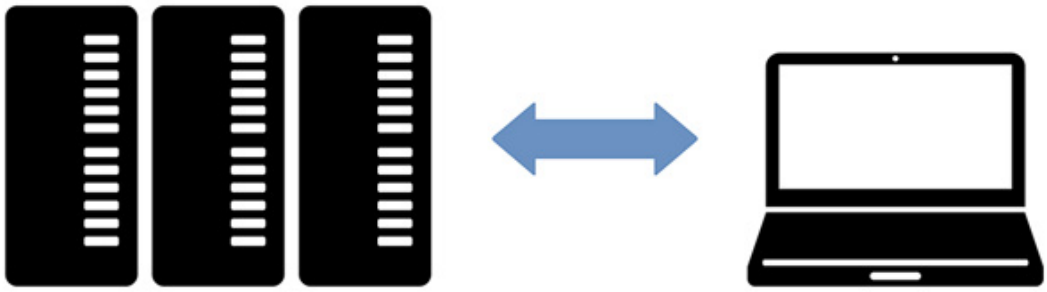
「パソコンの中じゃなくて、蔵の中にデータを入れるのか。確かに安全そうだな」

ソフトやデータのない「薄い」パソコン

シンクライアントの「シン（Thin）」とは英語の「薄い・やせた」という意味です。パソコンの厚さが「薄い」のではありません。ソフトなどいろんなものが入っている通常のパソコンを“厚い・太った”と表現するとしたら、入っていないパソコンは“薄い・やせた”と表現できるので、シン（Thin）クライアントと呼ばれているのです。

シンクライアントは、基本ソフトやアプリケーション、データなどがパソコン本体になく、パソコン内で最低限の処理のみを行う仕組みをいいます。パソコンの処理に必要なソフトやデータは会社やデータセンターなどに設置されるサーバー内に置かれ、ネットワークを介して利用します。

シンクライアントの仕組みの一例（※）



サーバーなどにアクセスして
ソフトやデータを利用

ソフトやデータを
持たないパソコン

※シンクライアントの仕組みは複数あります

Q シンクライアントのメリットを教えてください… 続きを読む